

# ブルガリア 出合いはコーヒーショップ!! 幼稚園で折り紙教室



ある日のこと、ブルガリアの首都ソフィアのコーヒーショップでボランティアが折り紙を折っていると男の子を連れた女性に声をかけられました。ボランティアがその子どもと一緒に遊んであげると、折り紙にとっても興味を持った息子の様子を見た母親が「この子の幼稚園に来ていただけないかしら。園長先生もきっと喜ぶはず。」と口にするほど感銘を受けたようです。この出合いがイベントにつながりました。

ボランティアから先方に本プログラムについて説明し、ボランティア自らアレンジして実現した今回のイベントは、園児100名強、教諭10名、保



カブトは新聞紙で



みんな大好き折り紙風船

護者2名を対象として行われました。園児は4～7歳で年齢別に4クラス。ボランティアはそれぞれのクラスを30分ずつ回り、日本の新聞でカブトを折ったり、風船を作ったりしました。折り紙の中でも風船は欠かせません。息を吹き込むと膨らむこの素晴らしい一品は、子どもたちのワクワク

感を一気に高めます。1枚の紙が立体の風船になる驚きとそれが喜びに変わる姿は本当に印象的です。先生たちからは「とても楽しい」、「非常に貴重な経験ができた」と感謝の言葉があり、ボランティアも園児の様子から本当に喜んでいてのを感じられたようです。最後にボランティアがお土産に用意していた竹（紙）トンボを受け取ると、子どもたちは「さようなら」の挨拶もそこそこにトンボ遊び



園長先生も大喜び



カブトをかぶって風船に挑戦

に夢中になってしまいました。こうした園児の心をグッとつかむ活動ができたのも、これまで当地において数多くの幼稚園でのイベントをこなしてきたボランティアならではの成果と言えるでしょう。

このイベントにはボランティア1名が対応しましたが、お手伝いをしてくれたブルガリア人がいます。大学で講師として日本語を教えているボランティアの友人ですが、彼女は以前から、自分の学生を連れて幼稚園や小学校などを訪問し日本文化を紹介するという構想を練っているそうです。ボランティアも、日本語を勉強する大学生が教育機関などへ赴いて日本を紹介する機会を体験すれば、子どもに接する楽しさから、大学で学ぶのとは異なる視点で「日本語教師」ということを考えるきっかけになるだろうと期待しています。今回そんな試みを考えているブルガリア人に協力をお願いして一緒に子どもたちの笑顔に触れたことが、今後実践として動き出せば、これほど嬉しいことはありません。

コーヒーショップでの出合いが日本文化紹介のきっかけに、その訪問の体験が現地の日本語教師主導による日本文化紹介のきっかけに…。小さな始まりでも、その効果はどんどん大きくなり、たくさんの新しい成果が波及することでしょう。ボランティアの2年間の活動経験が連鎖的に生かされ、繋がっていくことを実感するエピソードですね。